

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
豊かな心を持ち、心身共に健康で、たくましく未来を生きぬく子どもの育成	① 児童も職員も心身共に健康で、笑顔と活気あふれる学校を目指す。 ② 学ぶ喜びがあり、互いに高め合う教育活動を推進する。 ③ 人や地域との交流を通して、豊かな人間性を育む。

達成 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

3 目標・評価

① 児童も職員も心身共に健康で、笑顔と活気あふれる学校を目指す

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○コミュニケーション能力の育成	挨拶の励行	<ul style="list-style-type: none"> 「笑顔であいさつ さわやか西小っ子」の合い言葉のもと、「進んで挨拶ができる」児童90%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会や一斉下校等に挨拶のよさや必要性について話し、意識を高める。 家庭や地域にも挨拶の励行を呼びかけ、協力を仰ぐ。 学期末に生活を振り返らせ評価し、次学期の指導に活かす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで「進んであいさつをしている」と答えた児童が85%、保護者も80%を超えていた。職員も全員があいさつを意識して指導できた。 上手な挨拶の視点(自分から・立ち止まって・相手を見て・大きな声で・笑顔で・名前を言って)を玄関前に提示し、継続的にあいさつの指導を行った。 運営委員会や6年生による朝のあいさつ運動で、学校全体のあいさつへの意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員があいさつの必要性を自覚し、集会や学級指導の場面で継続的に指導を行っていく。 あいさつの視点の提示を継続し、児童に分かりやすい形で伝え続けていく。 児童による取組を継続すると同時に、できている児童を称賛するなどより一層児童の意欲が高まるように工夫をしていく。
	●いじめ問題への対応	生徒指導、教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は楽しいと思う」と回答する児童90%を目指す。 Q Uテストの学校生活満足群の児童を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週連絡会を行い、気になる児童とその対策について話し合う機会を設け、問題の早期発見に努める。 生活アンケートやパルソン検査を定期的実施し、学級の児童の様子を把握し、早期発見・早期対策に努める。 本校の学校いじめ基本方針を、いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルも含めて充実させ、対応の迅速化を行う。 教育相談週間を設定して、児童の理解を深める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで「学校は楽しい」と答えた児童が88%、保護者も90%を超えていた。職員も全員が「楽しんで学校に通えるような工夫や指導を行った」と回答した。 Q Uテストの学校生活満足群も学校全体で若干の増加があった。 生活アンケートからわかった児童が抱える問題に対して迅速に聞き取りや対応を行った。 教育相談週間を通して、児童の理解を深めることができたとの声が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の連絡会を中心に気になる児童の情報を共有し合い、全職員で児童を見守る体制を継続していく。 全校児童が楽しく学校に通うことができるよう、学校生活全体で他者を尊重し優しい言動ができる児童の育成をはかる。 教育相談週間を継続して行っていく。 こころのお天気等のアンケートを定期的に行う。
	●健康・体づくり	健康な生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> 90%以上の児童が「早寝・早起き・朝ごはん」の規則正しい生活ができるように家庭との協力を進める。 給食指導の推進により、残滓の量を毎日平均0.5kg以下にする。 運動することが好きな児童85%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健だよりを通して、保護者に児童の実態と生活習慣の定着の大切さを知らせる。 5月と11月に「いきいきチェック表」を配布し、生活習慣の意識づけをする。 食への意識を高めるために、食育授業や保健教育等を実施する。 学級毎にみんなで遊ぶ日を奨励する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月保健だよりを配布し、児童の実態と生活習慣の定着の大切さを知らせることができた。 朝ご飯については、ほとんどの児童ができていたが、早寝早起きについては、できたと回答した児童が約80%、保護者でできたと回答したのは約70%ほどであり、児童と保護者で認識の差があった。 給食の残滓量は、ほぼ毎日0である。調理員さんへの感謝の気持ちと食べ物を大切に思う気持ちをもって食べることができている。 運動が好きと答えた子が90%近くで、目標達成。低学年は遊具で遊んだり、男子はサッカーをしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健だよりを配布していたが、ただ配布されていることが多かったため、児童にも目を通してもらえるよう、帰りの会などで読み返す時間を作るよう呼びかける。 睡眠については、保健だよりなどを通して大切さを伝えていく。 食育については、生活全般において常に気を配るように心がけていく。食に関わる授業を行い、食べ物や調理する人への感謝の気持ちを育てていく。 体力向上週間とともに、子ども達の実態に合わせ、委員会や学級で声をかけたり、子ども自身が外遊びの日などを計画・実施する。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の健康管理と業務効率化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日の実施率70%以上を目指す。 職員の多忙感を減らすとともに衛生管理の改善と充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の明確化を行うとともに、行事や企画の目的や方法をよく吟味して、業務をより効率化する。 三部会制による協力体制の拡充と学年や教科などが組織的に活動しやすい環境を作る。 定時退勤日を毎週金曜日、第3水曜日と明確に設定し、職員の働き方の意識を高め、実践する。 級外による担任への協力や支援を行う。 職員室等の整理整頓と校舎内の環境美化に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教務主任や部会の部長と連携をとり、業務の明確化と業務の更なる効率化を図ろうと努力はしたが、年度途中では十分な改善はできなかった。 金曜日の定時退勤日については、ほとんどの職員が意識して実践できた。また、働き方改革による勤務時間の削減については、後半から徐々に改善ができた。 級外による担任への協力や支援については、教務主任を中心にSAの協力を得ながら充分でできたと思う。 「花いっぱい運動」等を利用したり、用務員の協力を得たりしながら、校舎内外の整理整頓や環境美化には取り組めた。また、安全点検を活用して、用務員の協力を得ながら施設設備の改善にも取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「働き方改革」を念頭に置き、今年度末から校長・教務主任と協議を繰り返しながら、業務の明確化や効率化に努力したい。 勤務時間の適正化については、業務改善と大きく関わることと思うが、個々の職員の意識化については、改善しつつあるので、今年度同様手立てを取りながらより一層の改善を図りたい。 三部会の組織・業務は、目標を絞って組織的な活動がよりしやすいような組織に改めたい。 業務においては、経験年数等を考慮しながら、業務分担がうまくいくように努力したい。 学校の環境整備等については、これまで通り事務職員や用務員と協力しながら行っていきたい。

② 学ぶ喜びがあり、互いに高め合う教育活動を推進する

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	基礎的・基本的学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 「授業が楽しく分かりやすい」と回答する児童の割合を全体の85%以上にする。 「有明西小っ子 学びのスタイル」により、「できた」と答える児童の割合を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階や実態に合わせて、少人数やT T等の学習形態を工夫し、指導方法の工夫・改善を行う。SAを活用した支援も実施する。 「学びのスタイル」を保護者や児童の目に触れるように配布し、意識を高めさせる。 学期に1回チェック週間を設け、重点的に取り組ませる。 各授業の中で、基本となるスキルの定着を図る。また、週1回の国語タイム・算数タイムを全職員の協働で実践する。 各種調査等で児童の学習の実態を把握し、課題に応じた指導の充実を図る。 図書館利用を促し、昨年度より読書量を増やす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果を分析し、児童の実態に合う内容や量の対策プリントを用いて、ポイントを押さえた指導につなげた。 少人数担当やSAの活用により、算数の時間は全学年複数で指導することができた。アンケートの結果を見ると、算数が「楽しい」「だいたい楽しい」と答えている児童が88.3%「分かった」「だいたい分かった」と答えている児童が92.3%だった。個別の対応を丁寧に行うことができ、学習効果も上がっていると思われる。 「学びのスタイル」のチェック週間を学期1回ずつの年3回実施することで、1回目82.8%、2回目85.4%と取組への意識が高まった。 「学びのスタイル」のチェック項目によっては、80%に満たないものもあり、その項目に対する指導の充実を図る必要がある。 「学びのスタイル」の他に「お勉強がんばろう週間」を設け、家庭学習の充実を図った。 朝の時間に「国語タイム」、「算数タイム」を実施し、地域の方にも「丸つけ先生」として参加もらい、1学級に複数の職員が指導に当たるようにしたことで、理解に時間がかかる児童にも丁寧に対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も少人数担当やSAの活用をし、指導方法を工夫することで算数の楽しさを十分味合わせ、算数好きな児童を増やしていきたい。 児童のアンケートの全体の結果では、「できている・だいたいできている」と答えた児童の割合は、82%であったが、保護者の回答は69%であった。そのため、学習時間だけに目を向けず学習メニューを与えたり、自分で学習メニューを考えさせたりして内容を重視し、質を高める指導を行う。

	○特別支援教育	全教職員の理解と協力体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 年に数回研修会を行い、特別支援教育への共通理解を図る。 特別支援教育がすべての学級に必要である事を認識し、常に現状の把握と課題解決のための方策を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師招聘等による事例研修及び理論研修会を実施する。 スクールカウンセラーの専門的意見やアドバイスを受けながら児童理解を深める。 校内教育支援委員会の開催と各個人のケース会議の開催。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで「一人一人に応じた、きめ細かい指導・支援」で「行っている」と答えた職員が90%、「行ってもらっている」と答えた保護者が80%だった。 毎週火曜日の職員連絡会で、各職員からでた児童の情報共有をすることにより、学校全体で支援をする体制を整えた。 特に支援が必要な児童については、定期的にケース会議を行い関係職員で協力して対応していった。 特別支援学級や通級指導教室の担当と連携し、発達障害を持つ児童や傾向のある児童への対応について研修を積んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級や通級指導教室の担当を中心とした児童理解の研修をこれまで通り継続していく。また、より効果的な実践へとつながるように、職員相互の悩みや疑問を自由に話し合える環境づくりに努める。 講師招聘等による研修会を実施したり、スクールカウンセラーとの連携をより深めたりして、職員の意識向上に努め、児童の困り感の軽減や支援に生かす。 家庭との連携を強めることによって、家庭での教育力を高めたり、児童理解(困り感の状況把握など)の意識が強くなったりするよう家族に働きかけていく。
学校運営	○教職員の資質向上	授業研究の推進と指導力の向上 服務規律の保持と法令遵守の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が、指導のポイントをおさえた授業ができる。 全職員が、常に服務規律保持等の意識を持って職務にあたるように、危機管理意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究の計画のもと、校内研究のテーマに沿った研究授業を1回以上実施し、指導力の向上を図る。また、相互に研鑽を積む(形成的自己評価を導入する)。 授業力向上・生徒理解・特別支援教育などの研修において講師を招いたり、各研修会への参加を呼びかけたりしながら、校内研だけでは得られない情報と各分野における技能の習得を目指す。 職員会議や校内研修等において、県教委から出された文書や事業をもとに、職員への指導や研修を行う。 長期休業中を利用して、服務規律等に関する研修会を行う。 危機管理マニュアルを活用した研修会を年1回実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を中心に、全教職員が研究授業や公開授業を行った。全ての研究授業に、講師を招聘して専門家の指導・助言をいただいたので、全教職員が成果を得ることができたと思う。ただ、研究1年目の年でお互いが思い思いの授業を行ったので、更に研究の柱をしっかりと設定する必要がある。 服務規律の保持と法令遵守の徹底においては、職員会議等では計画通りの実施ができた。しかし、長期休業中の西部教育事務所の指導主事を招いての研修会は、台風接近で直接話を聞くことができず、資料配付にとどまってしまった。 危機管理マニュアルは、全職員が見られるように配慮し、エビデン研修や救命救急等の研修を行った。 今年度は、本校職員の交通事故や不祥事等がなく安堵している。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も校内研究を中心に、講師招聘も行いながら、教職員の学習指導力向上を図りたい。 教職員の生徒指導力向上は、職員室等で自然に先輩先生方に尋ねられたり、後輩の指導ができたりされるような雰囲気作りを意図的に行ってきたい。また、管理職からの愛情ある指導も大切にしたい。 服務規律の保持と法令遵守の徹底においては、今年度以上に「0の日」を意識した取組を行いたい。また、夏季休業中に研修会を行いたい。 危機管理マニュアルを活用した実践的な研修会を来年度は実施したい。

③ 人や地域との交流を通して豊かな人間性を育む

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	人権・同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「自分や友達の良いところを見つけて、友達と仲良くすることができる」児童が90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童及び保護者の人権意識を高めるために、保護者も参加する人権・同和教育講座を開催する。 人権週間を設定し、人権学習の実践および人権作文、人権標語等の活動について取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 平和集会・人権集会の後は保護者にも集会の様子が伝わるように、写真や児童の感想を載せた人権便りを発行した。また、中央廊下にも児童の感想や集会の流れが分かる掲示物や、人権の柱を掲示して常に人権意識を高めるようにした。 ほかほかカードの取組により、「みんなのいいところを見つける」「みんなにありがとうを伝える」活動を通して、友達や自分のよさに目を向け、お互いに認め合うことができた。その結果「自分や友達の良いところを見つけて、友達と仲良くすることができる」児童が91%となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の人権意識の向上に努め、これまで同様、町の取組と連携を続けていく。 人権・同和教育講座を開催すると共に、人権集会にも保護者の参加を呼びかけ、親子で人権についての意識を更に高める機会を設けていきたい。
		特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り活動(共遊・掃除)で85%の児童が「協力してできた」という感想をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> なかよしファミリータイムでは、班の構成等を直し、計画表・振り返りカードを作って自主的に活動させる。 縦割掃除、共遊など縦割り交流の場を広げる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 活動の計画表を全学年が通る掲示板に貼り出すようにしたことで、次の活動の見通しをもつことができ、進んで活動していた。 班ごとに活動のめあてを立て、毎時間振り返るようにしたことで、「協力すること」を意識して活動できた。アンケートの結果94%の児童が協力してできたという達成感を得た。 縦割り掃除では、上級生が一人ひとりの役割を決め、掃除の仕方を指導したことで、学級の掃除よりも「だまって・いっしょうけんめい・すみずみまで・きれいに」できていた。 運動委員会と組んで、ファミリー対抗のなわとび大会も実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より取り組んだ縦割り掃除の取り組みで、掃除の仕方が上手になっている。そのことを踏まえて、来年度は週1回だった縦割り掃除の回数を増やしてみようかと考えられる。 縦割り交流の場をもっと広げるために、縦割り給食などを年に数回取り入れる。(例：お弁当の日に縦割り給食を行いそのまま昼休みは縦割りで遊ぶようにする。など)
	●志を高める教育	地域のよさを知り、ふるさとを愛する気持ちを高める教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のことを学習することが楽しい」と回答する児童の割合を全体の80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の資源や人材等を活用した体験活動や交流活動を実施する。 児童の思いや感想、地域の方の声を互いに伝え合えるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のことを学習することが楽しい」と回答する児童の割合が全体の95%程となって、目標の80%を大きく上回ることができた。 地域学習のコーディネートは、管理職が行った(主に校長)。おかげでうまく進んだ。学習の仕方や発表等は学年で異なるが、全学年で工夫した学習ができた。 公民館に向いての学習もでき、地域の老人会等と交流できたことは大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域(ふるさと)学習は、児童も喜んで学習できているので、今年度の取組を参考に、計画的に進めていきたい。 今年度は、管理職主導でうまく進めることができたが、来年度は教務主任を中心に、担任と連携しながら進めることができたと思う。
	○保護者、コミュニティスクールとの連携	育友会行事、授業参観等の積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観、学校行事等への参加者を75%以上で保つ。 フリー参観で祖父母及び地域の方の参観を現状の高い水準で維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 案内状を早めに配布し、便りやメール配信等で、授業内容や行事の内容を事前に知らせ参加を促す。地区にも広報活動を行う。 全学年で地域を生かした体験学習や交流活動に取り組みせ、活動を通して地域の人・もの・ことに関わらせる。 地域の人材ボランティアを活用し開かれた学校づくりを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観、学校行事等への参加者を75%程度は維持できた。また、「にしきえまつり」等では、祖父母の参観も見られた。 案内状は早めに配布し、校長便りやメール等で授業や行事内容を事前に確実に知らせることができた。 「お話会のボランティア」や「算数タイムの〇付け先生」、「にしきえ隊」など多くの地域人材ボランティアに協力いただくことができた。また、各学年で工夫した「地域の人・もの・こと」に関わる学習ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とコミュニティスクールとの連携については、今年度の取組を反省し、よかったところはそのまま維持し、改善すべきところは改善し、保護者やコミュニティスクールとの連携を進めていきたい。 学校目標や重点取組事項を明確に示し、地域・保護者と連携して教育活動を進める。